

令和元年 7 月 22 日
リサイクル燃料貯蔵株式会社

リサイクル燃料備蓄センターの現在の状況について

1. 新規制基準適合性審査の状況について

これまでの主な審査項目の進捗状況は、下表のとおりです。

施設関係の審査は、その大部分が原子力規制庁のヒアリングで確認されてきたことから、4月24日と5月20日の原子力規制委員会の審査会合の場で、改めて再確認が行われました。その結果、敷地境界線量の評価及び外部からの衝撃（竜巻、外部火災）等について、キャスクそのものと建屋等が担っている機能・性能の検討を行い、安全設計の考えを再整理することとなりました。

また、津波防護方針等の審査については、2月6日の原子力規制委員会において、「貯蔵建屋が損傷した場合でも基本的安全機能が損なわれるおそれがないことを確認する」ことに変更となったため、6月17日の審査会合において、貯蔵建屋が損傷した場合に金属キャスクに及ぼす影響が最も大きなものは、「架構鉄骨に天井スラブが付随して金属キャスク上に落下・衝突する場合」であることを説明し、審議を受けました。その結果、落下物として「架構鉄骨に天井スラブが付随したもの」を選定することは妥当であり、今後、動的解析にて金属キャスクの健全性評価を行うこととなりました。

一方、地震等関係は、6月17日の審査会合において、「火山影響評価に関する再確認」の審議を受けました。その結果、モニタリングデータを最新化し、データに変化があった場合の対応方針等を再検討・整理することとなりました。

引き続き、社内検討を十分に進め、審査に取り組んでまいります。

【参考：事業変更許可に関する新規制基準適合審査の進捗状況（その1）】

審査区分	これまでに確認された項目	今後の確認項目
施設関係	<ul style="list-style-type: none"> ○設計基準関係（「基本的安全機能【臨界防止、遮蔽、閉じ込め、除熱】」「損傷の防止【火災、竜巻等】等」） ○耐震設計の基本方針 ○津波評価方針のうち、津波防護方針等（漂流物による影響、浸水による影響、浸水対策） 	<ul style="list-style-type: none"> ○設計基準関係の再確認の審査会合（4/24、5/20）での指摘回答 ○津波評価方針のうち、津波防護方針等（津波に対する設計方針等）の審査

【参考：事業変更許可に関する新規制基準適合審査の進捗状況（その2）】

審査区分	これまでに確認された項目	今後の確認項目
地震等関係	<ul style="list-style-type: none"> ○火山影響評価 ○地質・地質構造 ○地震動、基準地震動、基準地震動の年超過確率、基礎地盤及び周辺斜面の安定性評価 ○津波評価方針のうち、仮想的大規模津波の策定 	<ul style="list-style-type: none"> ○火山影響評価に関する再確認の審査会合（6/17）での指摘回答

詳細については、当社ホームページから確認することができます。

(<http://www.rfSCO.co.jp/>)

以 上